

# (甑島) 令和コミュニティトーク

要約

日時：令和7年7月2日（水） 13:30～15:35

場所：鹿島公民館 大ホール

出席者

市：田中市長、掛田副市長、未来政策部長、市民安全部長、甑島振興局長、  
下甑支所長、秘書広報課長、コミュニティ課長他

地域：甑島エリアの9地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民39人  
(合計65人の参加)

## 1 市長報告

新フェリー「結 Line こしき」に対する対応および6月24日の集中豪雨の被害についての2点報告させていただく。

まず結 Line こしきについては、満潮のときにタラップの高さが合わない、あるいはエレベーターの位置が前のフェリーと違うということの御意見を伺っている。このことについては、私と市の担当から甑島商船に伝えている。その後の対応として甑島商船に対して、市の同席の下、甑島商船と住民の皆様との意見交換の場を設定するよう要請済みであり、甑島振興局や経済シティセールス部と連携しながら、甑島商船による説明会の開催に向けて調整を進めていく。

次に6月24日深夜0時から3時頃にかけて、上甑島の里地区で予測困難な集中豪雨が発生し、3時間で300ミリの降雨量を記録した。この豪雨により、人的被害はなかったものの、床上・床下浸水が合計40棟に及んだ（藪下自治会38棟、江石自治会2棟）。また、市道、河川、橋、林道にも被害が確認されている。6月25日には、技術担当の掛田副市長が現場に入り、本日7月2日午前中に、私と掛田副市長、部課長で浸水家屋等被害の現場を視察したところである。

現時点の対応状況は以下のとおり

- ・災害廃棄物の仮置き場を里地区に2カ所設置し、持ち込み手数料は無料
- ・市税の減免等については、個別の被災状況に応じて調査・対応
- ・床上・床下浸水家屋（40棟）への消毒作業を準備中。旅館等の事業所も対象
- ・り災証明の申請は甑島振興局を窓口を受付中
- ・市道側溝に堆積している大きな土砂と岩石も住宅地の部分を含めて除去を進める

- ・被災者向けに市営住宅4戸を準備
- ・保健師2チームが戸別訪問を実施し、健康相談と声かけを行っている。

災害調査の実施と、本土からも職員を派遣し、甑島振興局と一緒に災害復旧・復興に取り組んでまいりたい。

甑島地域でこれまでなかった床上浸水ということもあり、甑島振興局、あるいは本土の関係部課などに、集約した要望があればお伝え願う。

取り急ぎ新フェリーに対する御意見への対応と、豪雨災害の被害状況と現時点における支援の方向性について報告する。

## 2 地区振興計画について

### 【里地区】

6月24日に発生した豪雨災害により、里地区では床上・床下浸水等の被害が発生

した。地域として初めての災害であり、被災者は不安の中で対応に苦慮していたが、市による仮置場の迅速な設置、職員のフォローと保健師による精神的支援など迅速な対応が行われた。地域住民や他地区コミュニティ協議会からも励ましや支援の申し出があり、島全体の温かい心遣いに対して、深く感謝の意を表す。

令和6年度から7年度にかけて、「みんなで支える地域づくり」ということに重点的に取り組んでいる。自治会の持ち回りで実施していた地域行事「かずらたて」を地域一体で運営する体制に変え、伝統行事の保存継承に努めている。伝統行事である「かずらたて」を5年ぶりに実施できたということで、地域の伝統行事、芸能の保存継承に向けた意識、一体感がでてきた。

地域間交流活動として、教育部局のアイランドウォッチ事業で小学校4年生が1日遠足で来島しているが、その子どもたちに、昼食時にキビナゴを振る舞い、島をアピールしている。

観光客が増加する5月の連休や7月の夏休みの時期に向けては、里港周辺の清掃活動を実施、計画している。コロナ禍以降、地域活動が鈍化する現状に加えて、人口減少という大きな問題が生じており、地域行事の運営は厳しい状況にある。地域が一体となった取組みが求められており、来島する方々との交流機会をつくり、島の魅力を発信する必要がある。島の玄関口である里港周辺を清掃し、きれいな環境づくりに取り組むことで、島旅を満喫していただく結果に結びつくと考え。来島する子どもたちの7割が初めてとのことで、そういう子どもたちが、楽しい思い出をつくれれば次に繋がるのではないかと考えている。

毎月実施している海岸清掃についても、観光地周辺へ活動地域を広げて、地域の参加者が多く取り組めるように推進していくことを考えている。

今後の展開として、高齢者訪問給食サービスの配食業務を開業し、高齢者の見守りに取り組み、高齢者の避難時の連絡、初動体制をスムーズに行うため社会福祉協議会と連携をとりながら見守りマップの作成を進めていく。

高齢化が進行する中で、高齢者と多くの方々のコミュニケーションを促進し、そのことで、孤独感の解消や健康保持につなげる地域づくりを推進していく考えである。

## 【上甕地区】

少子高齢化による人口減少の影響を受け、第5期次地区振興計画において部会の統廃合を行い、従来の5部会を4部会に縮小し、実現可能な活動計画を策定した。活動は継続的なものが多いが、子ども向けの魚釣り大会などは参加者不足により実施困難となり、高齢者向けのグラウンドゴルフ大会などに変更するなど、現状に即した対応を行っている。

また、急激な人口減少に伴い空き家が増加していることから、地域づくり部会と自治活動部会が連携し、空き家対策に取り組む計画を立てた。使用可能な空き家の調査を進め、手放したいと考える所有者や賃貸可能とする所有者の把握を目指している。これらの空き家を利活用することで、人口減少の歯止めにつながる可能性があると考えている。

ただし、賃貸での入居希望者の確保や手放す物件の条件・価格などの課題もあり、まずは各自治会の協力を得て空き家の調査を進めるとともに、郷土会への紹介や空き家バンクへの登録など、様々な方法で情報発信を行い、移住希望者や住宅を探している人への提供を目指している。これらの取り組みを通じて、地域の活性化につなげていきたいと考えている。

### 【手打地区】

第5期地域振興計画の一環として「自然の恵みと・思いやりの心に満ちた・活力ある地域づくり」を掲げ、令和6年度に勝山登山道の整備を行った。整備のきっかけは、ユネスコ無形文化遺産に登録されている来訪神「トシドン」が大みそかに訪れる山として知られる勝山の歴史的・文化的価値に着目したことによる。地域の協力を得て、夏場を避けながら少しずつ整備を進め、甕島ツーリズム協議会の補助金などを活用して、倒木の除去やロープの設置、看板の取り付けなどを行い、登山可能な状態にまで改善された。

今年1月には「勝山にのぼろ一ど」と題した登山イベントを開催し、最高齢81歳を含む28名が参加。登山道はかつて青瀬方面への生活道路として使われていた歴史もあり、記憶を呼び起こす機会となった。また、約30年前に小学校教員が児童と登山した際に設置した名前を刻印したレンガが発見され、今年2月には児童と教職員が新たな記念レンガを設置されたとのことで、このように勝山を愛し、地域を愛する心を伝えていければと思う。

今後は新たなルートの整備も検討し、登山道の完成後には情報発信を行い、トレッキングコースとして観光資源化することを目指している。

### 【子岳地区】

「自然豊かな住み良いまちづくり」をテーマに、第5期地域振興計画を進めてきた。主な活動として、年1回の海岸清掃と浜道、一里橋からキャンプ場周辺の草刈り作業を行っており、海岸清掃には子岳地区出身の手打小学校の児童も参加している。今後は7月第3週にも清掃を予定している。

世代間交流としては、年2回のグラウンドゴルフ大会「子岳カップ」を開催しており、高齢者クラブや小学生が参加し、地元の茶屋やカフェが食事を提供している。この活動の成果として、下甕の大会で9連覇を達成しており、今後も継続していく予定である。

海岸清掃については、北西の季節風による漂着物が多く、甕大橋建設時の部品が流れ着いて定置網に被害を与えるなどの問題も発生したことがある。テトラポットの中や田野浦海岸など清掃が難しい場所もあり、市に対して季節風が落ち着く4月と観光客が増加する7月の年2回清掃を実施していただきたい。観光地としてみっちり草原が国指定される可能性もあるため、観光客の増加を見据え、浜道と海岸清掃を重点的に進めていきたいと考えている。

### 【西山地区】

毎月1回の清掃活動、敬老会、運動会の3つを柱とした地域行事を行っている。敬老会は高齢者が招待し、高齢者をもてなすという「老老敬老会」となっている。また、運動会はかつて小学校と連携していたが、廃校後も地区運動会として継続している。高齢者が中心のため、誰でも楽しめるように工夫されたユニークな競技を実施している。

運動会は人々の交流の場としても活用しようと、関西在住の出郷者に帰省を呼びかけた結果、10名ほどが参加。また、九州情報大学の学生（特に相撲部）が毎年参加し、ちゃんこ鍋の振る舞いをしてくださるなどを通じて地域と交流している。

このような活動は、人口減少が進む中で交流人口を増やす試みであり、ふるさとへの関心と呼び起こすきっかけにもなっている。ただし、50～60代の担い手が減少しており、今後の継続には課題がある。無理をせず、出郷者との繋がりを保つ手段

として、行事を続けていく意義があると考えられている。

### 【内川内地区】

かつて存在していた茶工場が閉鎖されたままであることから、地域活性化の一環として手もみ茶の体験施設をつくる取り組みが始まった。市や青瀬地区、長浜地区の協力を得て、専用の台「フォイル」を設置し、自分達で手もみ茶づくりに挑戦している。初回は焦げた味の茶ができたが、回を重ねるごとに品質が向上している。

この活動は、甌島ツーリズム推進協議会の支援のもと、約3年前から青瀬地区や長浜地区と高地での茶畑の再生に取り組み、地域住民が協力して5~6時間かけて作業するなど、交流の場にもなっている。

今後は、より美味しいお茶ができれば、生涯学習フェスタへの参加や商品化・販売にも取り組んでいきたい。また、内川内でも有名な「コッパ餅」もお茶と一緒に販売できるよう計画している。

### 【長浜地区】

長浜地区は、「防災・利便性の向上」、「防災活動」、「まるごとささえ愛活動」の3つを重点項目として取り組んでいる。特に「まるごとささえ愛活動」は、過去に孤独死が発生したことをきっかけに、地域で支え合う仕組みとして始まった。薩摩川内市の補助金を活用して事業を展開し、現在は補助金なしでもスタッフによる自主的な活動として継続している。毎月第1月曜日に定例会を開き、4名のコーディネーターが地域の高齢者宅を訪問し、困りごとへの相談対応や解決に取り組んでいる。解決が難しい場合は定例会で協議し、必要に応じて社会福祉協議会の助言も受けているが、力不足も感じている。

この活動を通じて、コーディネーターを中心に関係者の意識が「他人事」から「自分事」へと変化し、困っている人に自然と手を差し伸べる行為が生まれている。並行して、自家用有償運送事業も展開しており、高齢者の移動支援として買い物や通院などに活用されている。

今後は、第5期地区振興計画を通じて、地域の人々が生まれ育った地で長く生き続けられるよう、環境を整えて、優しい人たちが集まる世界をつくり上げていきたい。

### 【青瀬地区】

郷土芸能保存会により、伝統芸能である「ヤンハ踊り」の継承、支援活動を行っている。

地域行事で発表することによって後継者の育成と地域活性化に寄与したい。

活動は年間を通じて実施されており、「青瀬の日」や中学校の文化祭、神社の例祭奉納、地域のフェスタなどで舞台発表を行っている。保存会は現在19名で構成され、薩摩川内市文化協会下甌支部に登録している。

活動のきっかけは、出郷者の帰郷を促すために始まった「青瀬の日」であり、今年で10年目を迎える。帰郷者も高齢化しており年々減少傾向にあるが、子どもの時にヤンハ踊りを見て育っているため、目を輝かせて見入っており、今後も伝統芸能を絶やさぬよう取り組んでいきたい。

保存会では、唄い手や踊り手などの担い手不足が課題となっているが、地区在住の教職員や中学生の協力を得て、地域ぐるみで活動をしている。今後は、出郷者のUターンや移住者の増加を目指し、地域の資源を活かした取組を進めていきたいと考えている。

## 【鹿島地区】

「恐竜のまち鹿島」のPRを目的に、令和6年8月に地区内に恐竜の壁画を完成させた。これは、令和7年4月に甕ミュージアムが博物館としてオープンしたことに合わせ、地域住民一丸となって「恐竜のまち鹿島」をPRし、地域の活性化を図ったものである。

また、第5期地区振興計画の初年度には、重点3項目の1つである「安全で快適なまちづくり」に取り組み、防災意識の向上を目的に令和6年11月30日に防災訓練を実施。消防局や消防団、特別養護老人ホーム鹿島園の協力のもと、地震による津波を想定した避難訓練を行った。訓練では、自主防災組織災害対策本部設置訓練、情報伝達訓練、炊き出し訓練、救急訓練や消火訓練など多岐にわたる訓練が実施され、140人以上が参加する結果となった。

訓練を通じて、自治会内での役割分担の再確認や要支援者の把握が進んだ一方、鹿島園からの医療機器の持ち出しや通信機器の運用などに課題が残った。

今後は、訓練に未参加の方への声かけを行い、自治会ごとの訓練を実施して防災意識の定着を目指していきたい。

## 市長コメント

甕島9地区から、昨年度から始まった地区振興計画に関する取組を報告いただいた。自分の所属する地区の活動の振り返り、近隣地区の活動状況を共有できることは大変重要な機会だと捉えている。

まず、里地区は、「かずらたて」を5自治会で輪番制としていたのを地区一体で行う方法に変更した。人口減少の中で今後イベントなどを継続していくたの方法として有効であると考えている。

次に、上甕地区の空き家対策について。令和6年度、市内全域で実施した空き家調査により、全域で5,888戸空き家があり、甕島エリアも相当数空き家があることが判明したため、是非、「空家バンク」などを活用しながら情報発信、情報共有と一緒に取り組んで生きたいと考えている。

次に、手打地区の勝山登山道整備については、トシドンが降臨する山という伝説もあることから、イベントの実施、情報発信を市も考えていきたい。

次に、子岳地区の清掃活動については、地域で可能な範囲は清掃を続けていきたい。また、みっちり草原については、来年度の国指定に向けて準備を進める。

次に、西山地区の多世代参加型の地区民運動会については、非常に良い活動だと思う。特に、県外の九州情報大学の学生や帰省者10名ほどの参加があることがポイントである。地区住民だけでなく、市外県外から参加する人、いわゆる交流人口・関係人口の創出が大事であり、これは市でも参考にさせていただきたい。

次に、内川内地区の茶工場について。私が県議会議員であった15～20年前は、工場が動いていた記憶もある。工場跡地には、手もみをするための機械を設置するスペースもあるため、改善しながら取り組んでいただきたい。また、甕島ツーリズム推進協議会と一体となって進めてまいりたい。

次に、長浜地区について。「まるごとささえ愛活動」は孤独死がきっかけということであった。議会でも孤独死を防ぐための取組に関する議題があり、市外県外の親族の方々からの定期的な連絡・声かけも必要だが、このようなに地区住民からの丁寧な声かけや見守り活動が孤独死防止を含め、これからのコミュニティ活動には重要であると考えている。

次に、青瀬地区について。郷土芸能の「ヤンハ踊り」は貴重な伝統芸能であり、

約2年前の海外からのクルーズ船が寄港した際にはイベントも行っていただいたこともある。伝承に課題があるが、続けていただきたい。また、6月第1日曜日の「青瀬の日」で、帰郷者が21人おり、これも交流人口・関係人口の仕組みとして、モデル的な取組であり、参考にしたい。

最後に、鹿島地区の防災訓練について。300人の地区住民のうち半数近くが参加され非常に素晴らしいことである。6月24日里地区で起こった集中豪雨もあったように、市でも振り返りや検証、対策をしていくが、甑島においても、日頃からの災害への備えをできる範囲で準備していただき、市と地区が一緒に対策をしていきたい。

### 3 市政の動向について

#### (1) 主な動き

令和6年10月12日が市誕生20周年であった。

10月13日には、これまでの市民運動会をリニューアルしてスポーツフェスタとして初開催した。

令和7年3月20日は、新造船した結LINEこしきが就航し、令和7年4月には鹿島町に甑ミュージアムがオープンした。

4月から10年ビジョンとして第3次市総合計画が始まっている。

4月1日には、鹿児島県内で初めて女性の消防団長が誕生した。なお、消防団員の確保にも苦労されていると思う。県内43市町村で消防団があり、この中で11市町村に外国人が正団員として所属している。性別、年齢、国籍を問わず、できる範囲で、外国人の方も登用していただきたい。

4月27日には、医療MaaSの運用を開始し、下甑には診察車を配備している。

#### (2) 令和7年度当初予算のポイント

一般会計で591億2,000万円、過去最大であった。子ども・子育て、薩摩川内スマイルアクション50、コミュニティ・市民活動、産業人材確保・移住定住、SDG・カーボンニュートラル、DXの6項目に力点を置いて取り組む。

子ども・子育てには、110億円、当初予算の約19%の予算を措置している。18歳以下の子ども医療費の窓口負担をゼロにするために約4億を措置している。

薩摩川内スマイルアクション50は、子どもたちの笑顔があふれるようなイベント、まちづくりをしたいと考え、予算を充てている。例えば、非常に暑い日が続くことからその施設に特に用がなくても涼むことができる「涼みスポット設置促進事業」を今年度から実施している。

コミュニティ・市民活動では、きめ細かに補助金を措置している。例えば、ふるさと納税を活用し、地区コミュニティ協議会の活動を支援することを今年から実施している。また、長浜地区では、コミュニティセンターの新設工事を実施する。

人材確保策としては、市内出身もしくは、市内の高等学校を卒業して市内企業に就職した若者への10万円分のポイント支給を行っている。また、市内に住み、市内企業に就職した場合に最大300万円の奨学金返還支援も行い、保育士・就農者・林業大学校生への補助制度を新設している。

SDGs・カーボンニュートラルについては、地域の皆さまにも御協力をいただいているプラスチック使用製品18品目の分別収集回収の実施を開始している。

DXでは、今年から消防団活動を支援するためのアプリを導入し、1,100人所属している消防団員に出場指令や資料について、スマートフォンを活用し、業務の簡素

化を行った。また、市公式 LINE で市の情報を発信しており、是非、登録していただくようお願いしたい。

電源立地地域対策交付金等事業についての紹介である。1号機が昨年から20年運転延長されたことにより、令和6年から令和25年までの20年間、毎年1億円交付される。これは、学校給食費の補助に充てている。2号機も今年11月に稼働後40年経過するため、令和7年から令和26年までの20年間、毎年1億円交付され、公園遊具、川内港の北側の道路整備に充てる。このように生活に密着するようなことおよび子ども・子育てに対して原発の交付金を充てている。

それとは別に川内原子力発電所の20年間運転延長が決まったことにより、国から県に対し25億円交付されるが、そのうちの約半分12億4,100万円を薩摩川内市に交付される。これも、令和12年度までに、子育て支援事業や道路整備事業などに議会に提案しながら活用していきたい。

使用済み核燃料については、約5億円あり、令和7年度には2,000万円増額し、この増額分を赤ちゃんの駅設置促進補助金、涼みスポット事業や道路河川愛護謝金増額分などに配分しながら、予算措置をしている。

### **(3) 薩摩川内 2034 ビジョン (第3次薩摩川内市総合計画)**

令和7年度から10年間のまちづくりの指針となる「薩摩川内 2034 ビジョン (第3次薩摩川内市総合計画)」に基づくまちづくりがスタートした。

### **(4) 薩摩川内スマイルアクション 50**

これは私のマニフェスト連動であり、子どもたちの「楽しく、笑顔につながる、人が集うまちづくり (スマイルコミュニティ)」と「人と経済が循環するまちづくり (サーキュラー都市)」に取り組むものである。構成は大きな区分として社会スマイル事業、環境スマイル事業、経済スマイル事業、実現スマイル事業の4分野に分けている。計画期間は4年間であり、予算措置と連動させながら50事業を実施することとしている。

### **(5) コミュニティ・自治会活性化策**

ふるさと納税の使い道としての区分に地区コミュニティ協議会を指定できる仕組み新たに始めたところである。

自治会再編の状況について。自治会から要望があれば、市職員を派遣して助言、会議への参加も行い、市も支援している。令和6年度は青瀬地区で3自治会が合併した。令和7年度は、樋脇町市比野において7つの自治会が合併している。自治会活動の維持に苦勞されていると思うが、このように先進事例もあるので、甑島振興局、コミュニティ課などにお問合せいただきたい。

地区サポーターについて。地区の方々が市に対し相談をしやすくするための窓口職員として、各地区から要望があったところに配属しており、今年度は、里、子岳、西山、鹿島の4地区に配置している。

### **(6) 国県等の事業動向**

川内港では、京泊において唐浜埠頭を造成しており、令和7年度末に完成予定である。そのため、来年3月から暫定供用になってくる。この場所で200tのハーバークレーンを活用して輸出入が始まる。

川内火力発電所跡地におけるサーキュラーパーク九州の活用について。昨年8月

に、サーキュラーエコノミーに関して総理官邸で車座対話があった。7人のパネリストが参加し、火力発電所跡地の活用について15分程度、岸田総理に説明したところである。

川内港久見崎未来ゾーンのことについて。分譲用地が16haあるが、ほぼ全てが分場に関して協議済みであり、今後立地が行われていく予定である。

南九州西回り自動車道について。水引から湯田、西方、阿久根方面に工事と用地買収が進んでいる。

川内宮之城道路構想について。川内港から南九州西回り自動車道を経由し、北薩横断道路までを結ぶ高規格道路を陳情しており、8月2日には決起大会を実施予定である。

### **※令和6年度令和コミュニティトークの意見の進捗状況について**

1つ目は、手打地区からの「地区内の公民館や避難所の施設の在り方について検討してほしい」との意見である。現在の状況は、令和6年8月2日に手打地区の地区コミュニティ協議会および自治会長と意見交換を実施した。また、庁内で関係部課長会議を設けており、これまで3回以上会議をし、現在、手打地区内の公共施設の在り方について検討しているため、もうしばらくお時間をいただきたい。

2つ目は、子岳地区からの「浜地区の橋の付近の市道手打片野浦線のガードレールの損傷がひどいため整備をしてほしい」との意見である。まず、市道手打片野浦線の一部についてガードレールの取り替えが完了している。また、特に損傷が著しかった子岳川橋の修繕を完了している。

## **4 事前提出議題**

### **議題1 海岸漂着物の処理について【里地区】**

里地区コミュニティ協議会では、毎月第3日曜日を海岸清掃の日と定め、自治会ごとに海岸清掃を実施しているが、大きな漂着物の処分方法が問題となっている。通常は衛生自治連合会から支給されるボランティア袋で処分するが、大きな漂着物は処分することができないため、トン袋に入れたのを海岸上部の護岸下に集めている状況である。そのため、集めた大きな漂着物の定期的な処分に対する支援をお願いしたい。

**回答** 人力で回収できない大型の海岸漂着物については、市と県が担当する海岸があり、それぞれの担当区域における海岸漂着物の回収処分を行っている。里地区で海岸清掃が実施されている里港西海岸は県の対象海岸である。そのため、県に対し、フレコンバックに詰められた大型の漂着物を回収し、処分するように要請していく。

### **【意見：里地区】**

県の予算関係であると思うが、年度末に偏ってしまう傾向がある。年度末に予算の執行状況に合わせ、海岸清掃していただいているため、年度末まで待たなければならないことが想定されることに対するお考えを伺いたい。

### **甌島振興局長**

海岸漂着物の処分は、県も市も実施しており、対象範囲を毎年協議してから事業

者に発注をしており、これまでもできるだけ早い時期に漂着物を回収できるようにしている。今年度も入札を始めており、できるだけ早い時期に回収できるように取り組んでまいりたい。

### 【追加意見：里地区】

夏場の集客が多くなる時期である7月上旬ぐらいまでに実施できないか、県との協議をよろしくお願いしたい。

## 議題2 遊具施設の設置について【手打地区】

手打地区の公園施設が老朽化しており、使用不可能で立入り禁止の状態になっている。この遊具施設の解体撤去作業を鹿児島県北薩地域振興局農林水産部へ要望している。撤去作業は検討中とのことであり、撤去が終わり次第、市で新しい遊具施設の設置をお願いしたい。

**回答** 小泊公園には、鹿児島県が所有する施設である。遊具施設の更新については、令和2年6月9日付けで薩摩川内市長から鹿児島県知事に進達を行っている。遊具施設の解体撤去については、令和7年度中に鹿児島県で行うと聞いている。その後の遊具施設の設置については、まずは鹿児島県に再設置に向けて協議を行い、今後、市全体の公園における要望なども踏まえた上で、遊具などの充実を図り利用者のサービス向上に取り組むたい。

### 【意見：手打地区】

先日、鹿児島県北薩地域振興局甕島支所から、遊具施設撤去への予算が付いたと連絡があったことから、一つの目途がついたところである。しかし、その後の遊具施設の設置については中々難しいようで良い返答はいただいていない。

私が、撤去後に薩摩川内市で遊具を設置するのは可能か伺ったところ、1週間後に返事があり、可能ということであった。そのため、撤去が終了次第、可能な限り速やかに遊具設置をお願いしたい。

## 議題3 みっちり草原について【子岳地区】

子岳地区では、地区の財産である故郷の海をきれいにするために毎年7月に海岸清掃を行っている。地区住民による海岸清掃によってある程度の漂着物の除去が可能であるが、テトラの中や大型の漂着物の撤去が難しい。今後、清掃活動への参加者数の減少や高齢化が進み、実施が困難になることも予想されるため、行政による定期的な清掃をお願いしたい。具体的には、漁港にあるテトラ内のごみの撤去、一里橋から前ノ田橋の道路の草刈り、田野浦海岸の漂着物の撤去である。また、子岳地区としては、今後みっちり草原を核として観光客を増加させていきたいため、市にも協力を願いたい。

**回答** まず、市が管理している漁港区域の漂着物の撤去については、市内の各漁港の定期的な点検、維持管理を行う中で撤去している。御指摘の片野浦漁港のテトラ内のごみの撤去についても、地元の皆さまからの御要望を踏まえながら、予算の範囲内で順次対応していきたい。

次に、道路における伐採作業について、市内各地域においても、子岳地区と

同様の課題や意見をいただいている。地域での作業が困難な場所については、市の道路維持補修等業務専門員や地域事業者による伐採業務委託で対応している。御意見があった市道手打片野浦線については、現在、市において定期的な伐採作業は実施していないが、地域の皆さまから要望があった際に現地を確認した上で必要に応じて伐採作業を行っているところである。また、時期を指定した定期的な伐採については、他地区との調整も必要とはなるが、今後は観光部門や地域の皆さまの御意見を踏まえながら、実施時期を調整したい。なお、伐採などの地域活動において危険が伴う箇所や作業がある場合はまずは甌島振興局に御相談ください。

次に、田野浦海岸の海岸漂着物について、例年、この海岸に多くの漂着物が打ち寄せられていることから、県の海岸漂着物等地域対策推進事業費補助金を活用して海岸漂着物の回収処分を実施する予定である。

最後に、みっちり草原を核とした観光客の増加については、甌島ツーリズム推進協議会において、令和5年度よりみっちり草原の登り口階段や遊歩道の整備などを子岳地区コミュニティ協議会に業務委託をしているところである。みっちり草原は、8月にカノユリやニシノハマカンゾウが咲き誇る観光スポットで、風衝草原としても文化財の観点からも注目されていることから、この場所をエコツーリズムの題材として植生の専門家を招聘し、現地ガイドツアーや郷土料理を食する甌島エコツアーを実施する予定であるなど、今後も貴重な自然環境を保全しながら、観光誘客に努める。

#### **【意見：子岳地区】**

特に、みっちり草原に至る市道の整備については是非、行っていただきたい。

#### **議題4 地域清掃活動への土木建設業者への協力【西山地区】**

毎年夏の時期に道路愛護運動を行い、道路環境整備に努めている。高齢化の進行と人口減少により一人一人の負担が大きくなり、活動に対して悩んでいるところがある。そこに地元の土木建設業者が地域貢献としてこの作業に参加していただいている。地区コミュニティ協議会としても動ける間は環境美化に努めるが、これらの方々の手助けがあって道路愛護事業が推進できている。市としてこれらの地域貢献をされている業者への対応は何かを考えているのか。

**回答** 建設工事業者による自主的な道路環境整備等の地域貢献については、入札参加資格の基準となる総合点や総合評価落札方式で加点の対象としている。また、市内各地域においても同様の課題や意見をいただいております。地域での作業が困難な箇所は、市の道路維持補修等業務専門員や地域の事業者による伐採業務委託などで対応している。今後は建設工事業者が行う地域貢献活動が適正な評価となるよう努めるとともに、地域活動において危険が伴う箇所や作業が難しい場所がございましたら甌島振興局に御連絡ください。

#### **【意見：西山地区】**

今後とも、こういう場面が増えると思うので、よろしくお願ひしたい。

#### **議題5 鹿島コミュニティプールについて【鹿島地区】**

鹿島コミュニティプールは、今年度は指定管理者がいなかったため、鹿島小学校の児

童は上甌地区のプールを利用している。しかし、移動時間だけでも往復 40 分かかり、時間ももったいなく、子どもたちに負担となる。来年度、仮に指定管理者がいなかった場合、学校のプール授業のみで良いので利用できるようにしてほしい。なお、プールの事前清掃など必要なことがあれば PTA や地域住民が集まって行う意向もあるので検討いただきたい。

**回答** 鹿島コミュニティプールは、令和 6 年度に 6 月 25 日～7 月 26 日まで、10 月 18 日～11 月 18 日までの 2 回、指定管理者の募集を行ったがいずれも応募者がいなかったため、令和 7 年度は同施設を休止している。令和 8 年度以降についても引き続き指定管理者を公募し、指定管理者による施設の維持管理ができるように努めていく。なお、プール授業については、上甌小学校の全学年が同じ時間帯に授業を実施するため、バスを借上げて上甌 B&G 海洋センターまで送迎している。学校に確認したところ、授業日数についても十分確保できており、現状問題ないということであった。来年度のプール授業については、鹿島コミュニティプールが指定管理者による維持管理とならなかった場合、児童や保護者、教職員からの意見の聞き取りを行いたい。

#### **【意見：鹿島地区】**

現在、上甌に行ってプール授業を行っているが、子どもたちも楽しそうに、元気にしている。しかし、保護者からは、子どもたちの疲労感や終了後の授業への集中力に対する不安も出ているので、検討していただきたい。指定管理者がいなければ、学校のプール授業でも利用はできないのか。

#### **甌島振興局長**

まずは鹿島コミュニティプールの指定管理者の確保に努めたい。また、今年の子どもの状況や保護者からの御意見をいただきながら、今後の学校授業のあり方を検討していきたい。

## **5 フリートーク**

### **(1) 地区振興計画について**

特になし。

### **(2) 市政の動向について**

特になし

### **(3) その他**

#### **【意見：鹿島地区】**

九州電力株式会社の社長と市長の会談を先日のテレビ報道で拝見した。放射性廃棄物の容器が満杯であるという話があったように記憶している。今後、川内原子力発電所でも同様の問題が起きる可能性があり、容器不足によって海上投棄の議論が出てくるのではないかと懸念している。特に甌島の漁業にとっては、海産物への影響が大きく、東北の震災後の海上投棄問題のように中国などとの摩擦が出てくる可能性もある。漁業者の生活に直結する問題であり、今後の海上投棄の議論になった場合は漁業者の声を十分に聞いて慎重に進めてほしい。

## **市長**

先日、九州電力株式会社の会長と社長が市役所に来庁された。その際、私からは川内原子力発電 1、2 号の安全な運転管理の徹底と市民の皆さまへの情報公開と丁寧な説明をしていただくように強く要請した。その中で、社長からは、川内原子力発電 1、2 号の使用済み燃料の対策について、現在プールの中に溜めているが、乾式貯蔵という陸上での保存方法の技術的な検討が最終段階であるという発言だけであった。海上投棄ということでは絶対はないので、誤解のないようお願いしたい。

## **【意見：上甕地区】**

第 3 次総合計画の第 1 期実施計画において、「上甕コミュニティセンターアリーナ空調設置事業」が計画の見通しについてお伺いしたい。

## **未来政策部長**

第 1 期実施計画は、向こう 3 カ年の大規模な投資事業に関して、令和 7 年度にスタートした第 3 次総合計画に基づく、実施計画を示したものである。上甕コミュニティセンターアリーナへの空調設置は、項目上登載しているが、予算については今後の検討である。

## **【追加意見：上甕地区】**

来年から事業を開始するという計画になっていると思う。夏場のアリーナは大変暑いので、6～9 月くらいまではいろいろな大会も実施できないような状況である。直近だと、6 月 29 日に少年バレーボール大会が開催されたが大変暑かった。このような状況であるので計画通りに行っていただきたい。

## **【意見：上甕地区】**

上甕で運行されている「ほのぼの交通」は、令和 5 年 4 月から運行を開始し、営利を目的としない地区コミュニティ協議会が、地域住民からの負担と市の補助金を基に運営している。将来的にコミュニティバスが廃止される可能性もある中で、こうした交通手段は必要不可欠であるが、運営状況は非常に厳しく、地区コミュニティ協議会や住民の負担が増えるようであればこの事業の継続は困難であると考えます。

事業開始から 3 年目を迎え、地区コミュニティ協議会の負担が令和 5 年度は 24 万円程度、令和 6 年度は市の配慮もあったが 7 万円程度生じている状況である。これは補助金において、それぞれの区分で限度額が設定されているためである。担当課との協議でも補助対象外の経費ではないが、区分ごとの限度額が設定されているため補助ができないと説明を受けたところである。しかし、開始当初の利用者数は月 260 人程度であったが、現在では月 400 人を超えることも多く、350 人を下回ることはほとんどない。利用者の増加に伴い経費や作業量も増加しているが、運転手に対して報酬も十分に支払いができておらず、不満の声がでている。そのため、運転手の確保と待遇改善のための経費を地区コミュニティ協議会の負担を増やし賄っている。なお、職員の手当についても同様に十分な報酬を支払っていない。

また、補助金については、全体で令和 5 年度が約 22～23 万円、令和 6 年度が約

4万円返納している。この返納分は、配分された補助金の総額は超えておらず、補助対象外の経費が発生した訳でもないが、それぞれの区分の限度額が設定されているためである。

地区コミュニティ協議会は利益を出すような組織ではなく、会費の引き上げも厳しい状況であるため、実情を踏まえた上で補助制度の柔軟な運用と改善をしていただくようお願いしたい。

#### **甌島振興局長**

「ほのぼの交通」は、利用者が年々増加しており、地域の足としてなくてはならないものになってきている。補助金における基準、限度額の設定について、改めて内容を確認させていただきながら、見直しについても検討させていただきたい。

#### **【追加意見：上甌地区】**

手当については、月に1万5,000円である。しなければならない事務として、電話当番と報告、運賃の集計、運転手の報酬の計算など多岐にわたるため、1日、2日のできるような業務量ではない。電話も年中無休であるため、誰かが土曜・日曜日でも電話当番をしている。このような状況を担当課にも知っていただきたいという思いもある。そのため、担当課にも直接現場に来ていただき現状を知っていただいた上で見直しについて検討していただきたい。

#### **掛田副市長**

地域の足の確保は何より重要なことだと考える。会長の発言にもあったとおり、現場の状況を伺い、その上で市もしっかり協議してまいりたい。

#### **【意見：鹿島地区】**

鹿島コミュニティプールは30年以上経過し、プールサイドなどの老朽化が進行しているため、怪我をしないか心配である。また、鹿島地区はウミネコ留学生がたくさんいるのにプールがないのはとても残念である。

甌島の周囲は海で囲まれているため、何かあった時に泳げるか泳げないかは生死を分けると思う。泳げるようになるためには実技で身に付けるしかないと思う。鹿島コミュニティプールは水泳教育のためにも必要であるので、検討をお願いしたい。

#### **甌島振興局長**

事前提出課題は学校の授業でのプール利用であったが、今の御意見は幼児など、広く一般的なプール利用の部分も含まれているということによろしいか。

#### **【追加意見：鹿島地区】**

学校の授業だけで良い。

#### **甌島振興局長**

引き続き、鹿島コミュニティプールが利用できるように、まずはプールの指定管理者を探し、御指摘いただいた施設の修繕についても検討してまいりたい。